



人権集会の発表の様子

12月8日（金）に行われた人権集会では、各学年が様々な形態で発表しました。



1年生は、いじめ問題の学習で、「わたしのいもうと」という絵本の朗読を行いました。

転校先で方言が原因でいじめが始まり、その他様々なことでいじめにあった妹が家にひきこもりとなり身体をこわし、ついには命を落としてしまうという、姉の視点から描かれた内容でした。絵本の挿絵がスクリーンに映し出され、そのページの内容を代表者が感情をこめて朗読しました。



2年生は、「同和問題」「子どもの貧困」「LGBTQ」の三つの人権問題について調べていました。

同和問題では、差別の歴史や内容、差別解消に向けての取組についての発表、子どもの貧困では、その原因や対策、私たちにできることについての発表、LGBTQでは、それぞれの説明、日本社会の取組、私たちにできることについての発表を行いました。短い時間で三つの人権問題の発表でしたが、要点をわかりやすくまとめていました。



3年生は、高齢者疑似体験をした際の写真をスクリーンに映し出し調べた内容を発表しました。

高齢者の方々がどのようなことに困り感を持ち、住みやすい世の中、人助けをするまちとはどのようなものなのか、その特徴や実際のサービスなどの紹介を行いました。また、私たちができることについてもまとめており、生徒それぞれがタブレットを手に、班ごとの練習の成果を発揮していました。

人権集会の最後は、深堀中の人権宣言が発表され、内容の一つ一つを丁寧に読み上げ、生徒全員で確認しました。詳細についてはHPに掲載していますので、そちらをご覧ください。

さて、12月9日(土)の午後から、第42回全国中学生人権作文長崎県大会表彰式及び朗読大会が長崎県勤労福祉会館で行われました。県内146校から15,647名の応募があり、深堀中からも数編の作品が出品されましたが、残念ながら表彰には至りませんでした。私は本大会の審査を行った経緯で、この表彰式に参加しました。入賞者の上位11名が朗読を行い、どの作品もとても胸を打つ内容ばかりでした。その中でも、今回の人権集会の内容と関りがあった2作品を紹介します。1作品目は、カナダへの語学研修に行って、同じ空間の中に多国籍や多様性のある生徒が学び、その状況が不自然ではなくお互いを尊重し合った姿が見られたという内容でした。その要因を、日本とカナダとの文化の形成や学校教育の比較を通して自分の考えを述べていました。2作品目は、買い物の後、同じ場所で袋詰めを行っていた目の前の高齢者が、ほかの人に「急いでいるから」とせかさされ、その時発した「すみません」という一言に違和感を感じた中学生の考えでした。高齢者に「すみません」と言わせるのではなく、「ゆっくりでいいですよ」などと周囲が思いやりをもった一言や行動をとることが必要だと述べていました。後日、作品集として各学校へ届くので、ぜひ子ともたちに読んでほしいと思います。

深堀中生の活躍

毎年1年生が、美術に時間に取り組んでいる門松カードの作成を今年も行い、深堀地区コミュニティ協議会の中で審議され最優秀賞1名、優秀賞8名が選出されました。なお、最優秀賞の門松カードは深堀地区の家庭に配布されます。

最優秀賞 1年生 1名
優秀賞 1年生 8名

★長崎新聞ジュニア歌壇 〈12月10日(日)掲載〉

佳作 3年

【カレンダー眺めて焦る時の早さ受験生だと実感する日々】

3年

【秋の風ひんやり通る君のほほ甘くほてるよ僕の心が】

3年

【紅や短命凜と輝くため毒をもち咲く曼殊沙華よ】

3年

【青空で生き生き泳ぐいわし雲私もいれてぐんとのばす手】

1年

【ねこじゃらし手いっぱい握りしめ愛猫恋し家路を急ぐ】

1年

【すすきの葉風がささやきわらってる月を見あげてみんなもわらう】

1年

【秋になり動物達が長い長い休みに入るよおやすみなさい】